

宮田直彦のエリオット波動レポート

マーケット見通し(短期アップデート) 10 月 29 日 10:34 AM 更新

[日経平均]

【当面の想定レンジ】 34,000～40,250 円

[NY ダウ]

【当面の想定レンジ】 41,600～43,500 ドル

[ナスダック]

【当面の想定レンジ】 16,900～18,700

[米ドル/円]

【当面の想定レンジ】 137.000～152.000 円

[ドルインデックス(ドル指数)]

【当面の想定レンジ】 99.578～104.087

エリオット波動とは

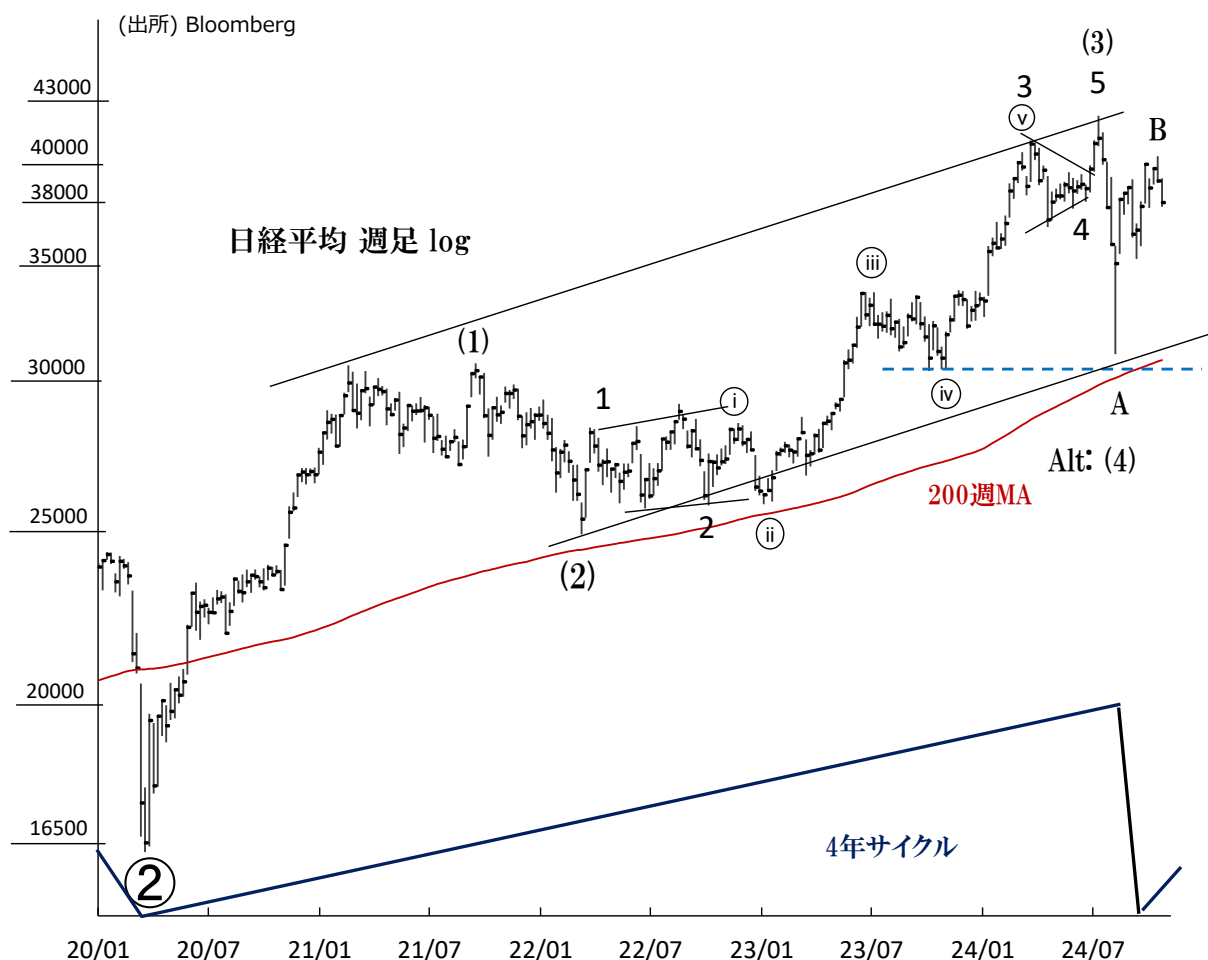
株式・為替動向を予想する心強いテクニカル手法

米国人ラルフ・ネルソン・エリオットが提唱した、今後の株式や為替など市場価格の動向を予想する手法です。相場は5つの上昇波と3つの下降波（合計8つの波）で一つの周期を作るパターンに従って展開するとされます。

このパターンは集団心理によるもので、数分から数十年といった様々な時間軸において観察されます。

フィボナッチ数列、黄金分割比率をチャート分析に初めて導入したのもエリオットです。

日経平均



【週足 エリオット波動分析】

42,426 円(7/11 高値)以来の第(4)波(インターミディエイト級)中 A 波は、31,156 円(8/5 安値)を以て終わったとみられます。それは 20 年 3 月以来の 4 年サイクル底に相当します。

中長期タームの見通しは強気を維持。来年の日経平均は、第(5)波の上昇によって 42,426 円を上抜き最高値を更新する可能性が高い、とみています。日経平均予想 EPS が初めて一時 2500 円台に増えるなど、好調な企業業績は続いており、4 万 5000 円も十分射程内にあります。

なお第(5)波の上昇は、最短 2025 年 2 月、最長の場合 2026 年 12 月まで続くと思われます。特に 2025 年末頃までを、第(5)波による上昇期間として注目しています。



【日足 エリオット波動分析】

足元、日経平均予想 EPS は 2500 円付近にあります(10 月 15 日は 2514 円と最高水準を更新しています)。EPS2500 円・PER18 倍から得られる 4 万 5000 円という水準は、25 年の日経平均ターゲット候補として要注目です。

もっとも、31,156 円(8/5 安値)からのリバウンド[第(4)波中 B 波]は、40,257 円(10/15 高値)を以て終了したとみられます。10 月 15 日のローソク足『流星』と、翌 16 日のギャップダウンによって生じた『アイランド・リバーサル』は、トレンド下方転換を強く暗示するものです。

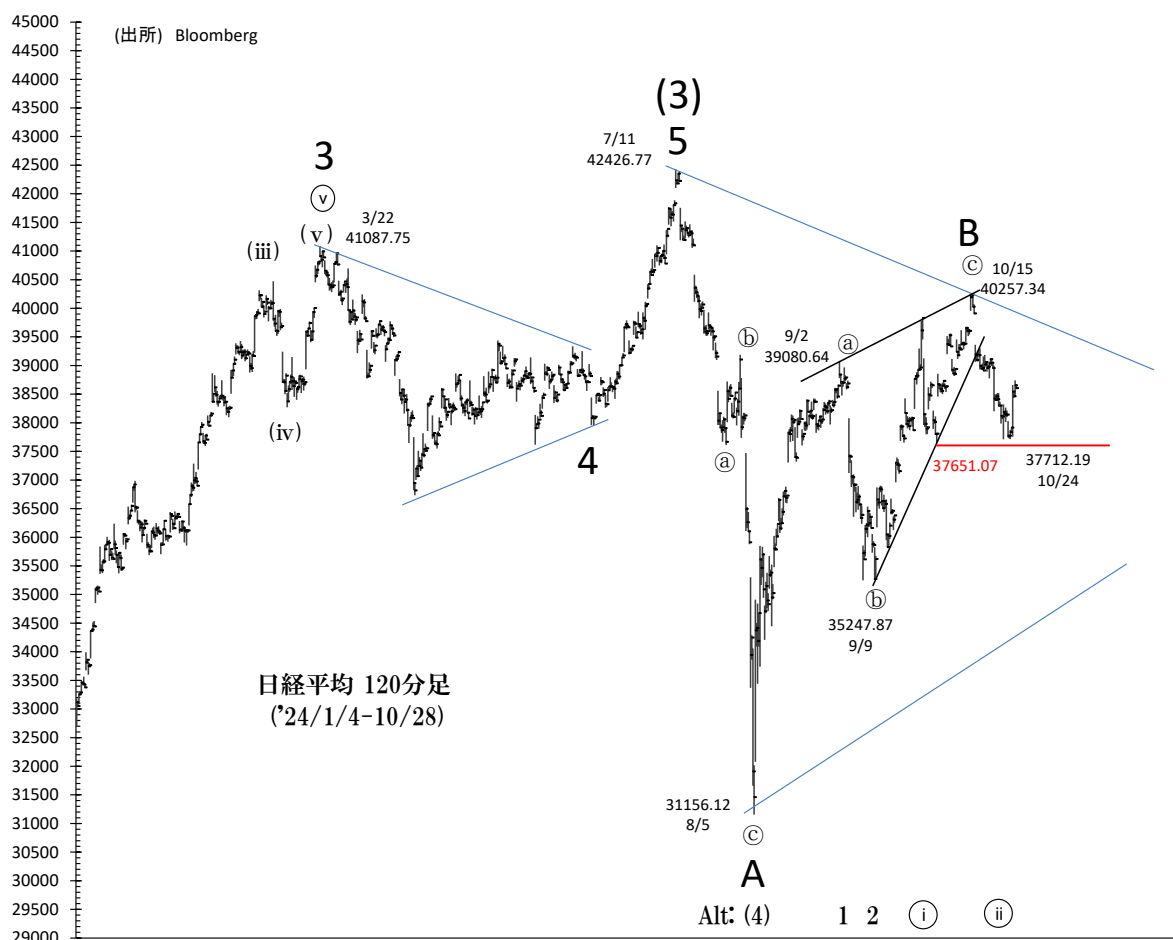
時価総額上位銘柄で構成される TOPIX コア 30(海外投資家好みのブルーチップ株)は、8 月以降の戻り高値を 9 月 3 日に付けており、日経平均より 1 カ月以上も先に頭打ちした格好です。このようなコア 30 と日経平均の『未確認』は、主力株への売り圧力の強さ、相場全般の潜在的弱さを示唆しています。

10 月 28 日、日経平均は短期筋の買い戻しにより大幅反発(691 円高)しましたが、25 日 MA(※)超えはなりませんでした。

※25 日 MA…38,700 円(10/28)

日経平均は 40,257 円を起点に C 波の下落局面が進行中とみられます。

目先買い戻しが一巡してから日経平均は下値模索を再開し、11 月にも 35,247 円(9/9 安値)を下回り、8 月の「一番底」に次ぐ「二番底」を付けるでしょう。



【時間足 エリオット波動分析】

当面の日経平均の見方には、以下の「メインシナリオ」と「サブシナリオ」があります。

[メインシナリオ] 35,247 円を下回り、「二番底」を形成

7 月高値以来の第(4)波は[トライアングル(A-B-C-D-E)]を形成中です。

31,156 円(8/5 安値)からの B 波((a)-(b)-(c))によるリバウンドは 40,257 円(10/15 高値)で終わり、そこからは C 波((a)-(b)-(c))による下げが進行中です。

C 波は 35,247 円(9/9 安値)を下回り、8 月安値に次ぐ「二番底」を付けるでしょう。37,651 円(10/2 安値)を割れることにより、当シナリオの現実味は一層強められます。

なお「二番底」の水準については、フィボナッチ比率からは以下の水準に注目できます。

[34,632 円]…B 波の上昇に対し 61.8%押し水準

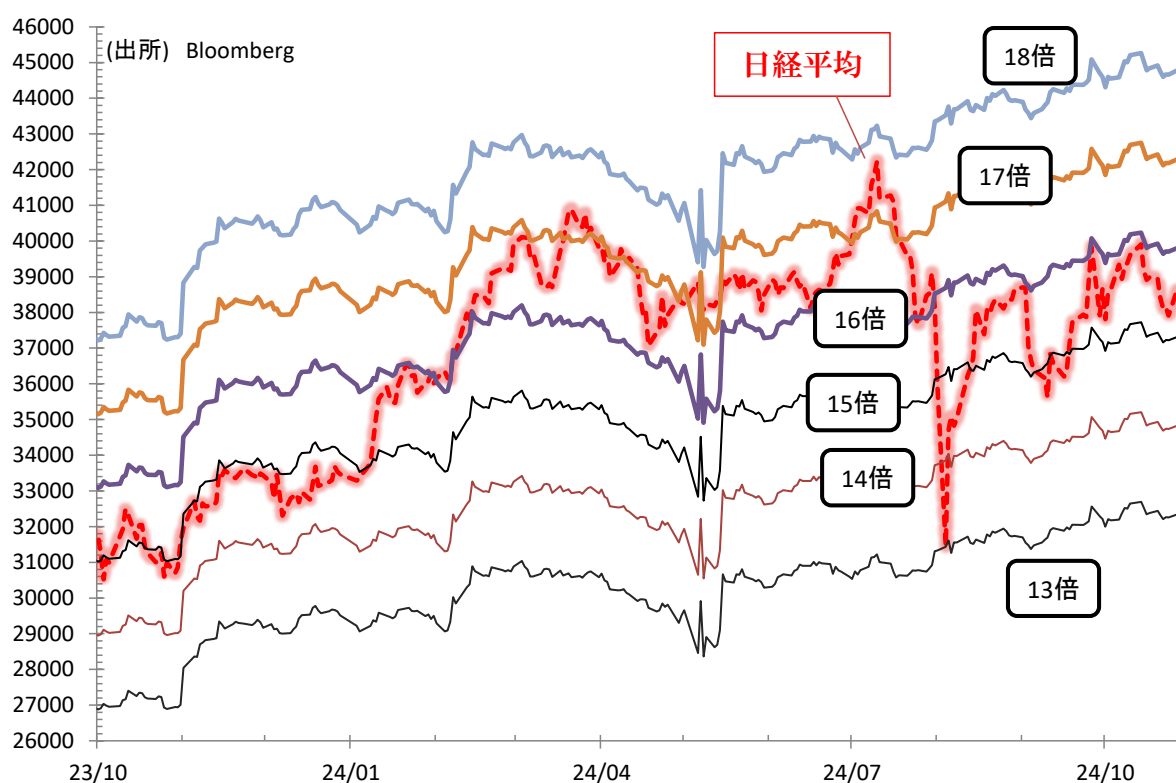
[33,304 円～33,103 円]…同 76.4%～78.6%押し水準

[サブシナリオ] 第(5)波入り～年内にも高値更新へ

31,156 円(8/5 安値)以来、第(5)波による強気相場が進行中です。40,257 円を上抜くと複数の弱気パターンが解消され、上値追いの動きが強まりそうです。

この見方によれば、35,247 円(9/9 安値)以来の上昇は第(5)波-第 3 波に相当し、それによって年内にも 42,426 円を上回り高値更新の可能性があります。

[予想 PER 別の日経平均水準]



NYダウ



【日足 エリオット波動分析】

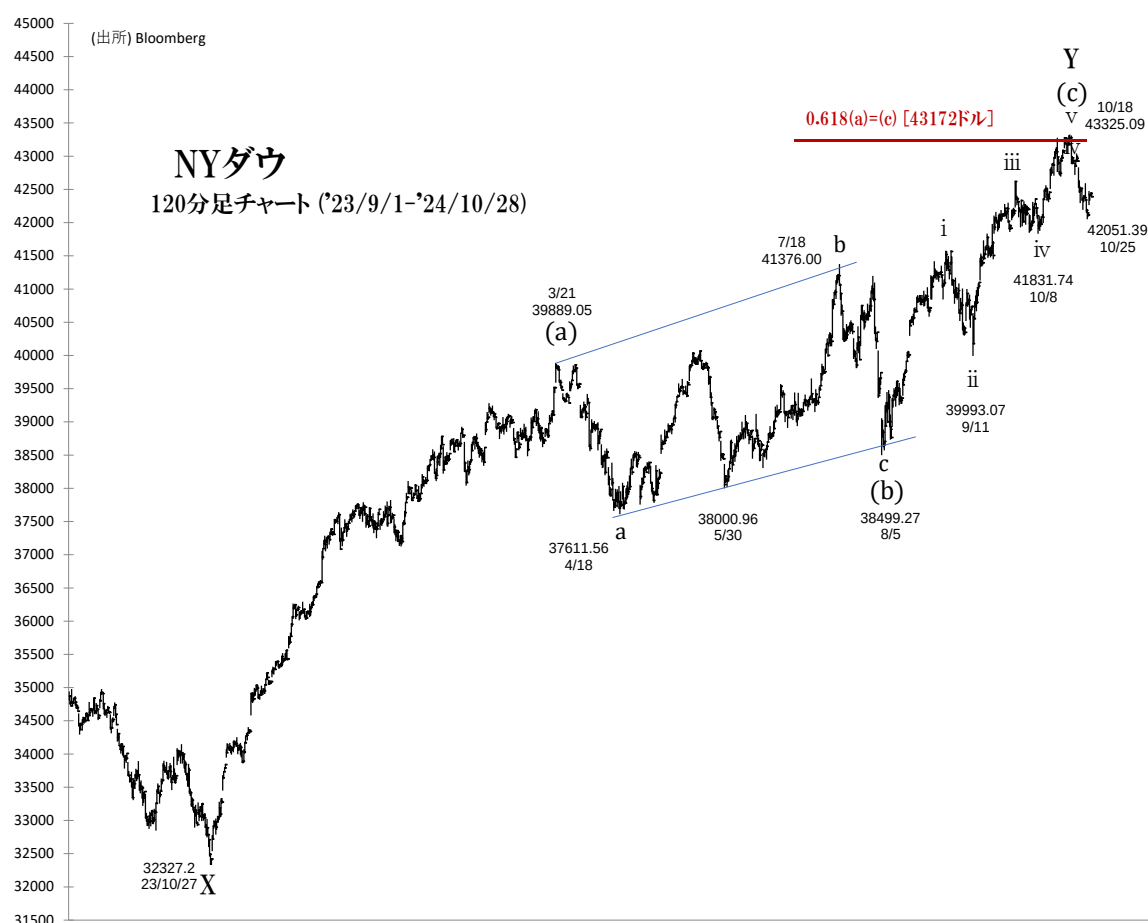
22 年 10 月安値(28,660ドル)以来の上昇は(B)波とカウントされ、(B)波のパターンは[ダブル・ジグザグ(W-X-Y)]を想定しています。

23 年 10 月安値(32,327ドル)からの Y 波は [ジグザグ(a)-(b)-(c)]編成となります。

(プリファード(優先)波動カウント)

38,499ドル(8/5 安値)以来、Y 波中(c)波による上昇とみています。10 月 18 日の 43,325ドルという高値は、フィボナッチ比率を反映する水準でした。それに加え、(c)波完成に必要な 5 つの波(i ~ v)も認められます。

(c)波及び Y 波は終了し、X 波による下落局面がスタートしたかもしれません。



【時間足 エリオット波動分析】

23 年 10 月安値・32,327ドルからの Y 波は、(a)-(b)-(c)[ジグザグ]編成となります。

38,499ドル(8/5 安値)以来、(c)波による上昇とみられます。それは 43,325ドル(10/19 高値)までに五つの波(i ~v)を刻み、(c)波完了の条件のひとつを備えています。

加えて、直近高値 43,325ドル(10/19)は、Y 波中の(a)波と(c)波が長さにおいて、1:0.618 のフィボナッチ比率を反映する数値[43,172ドル]にほぼ合致しています。

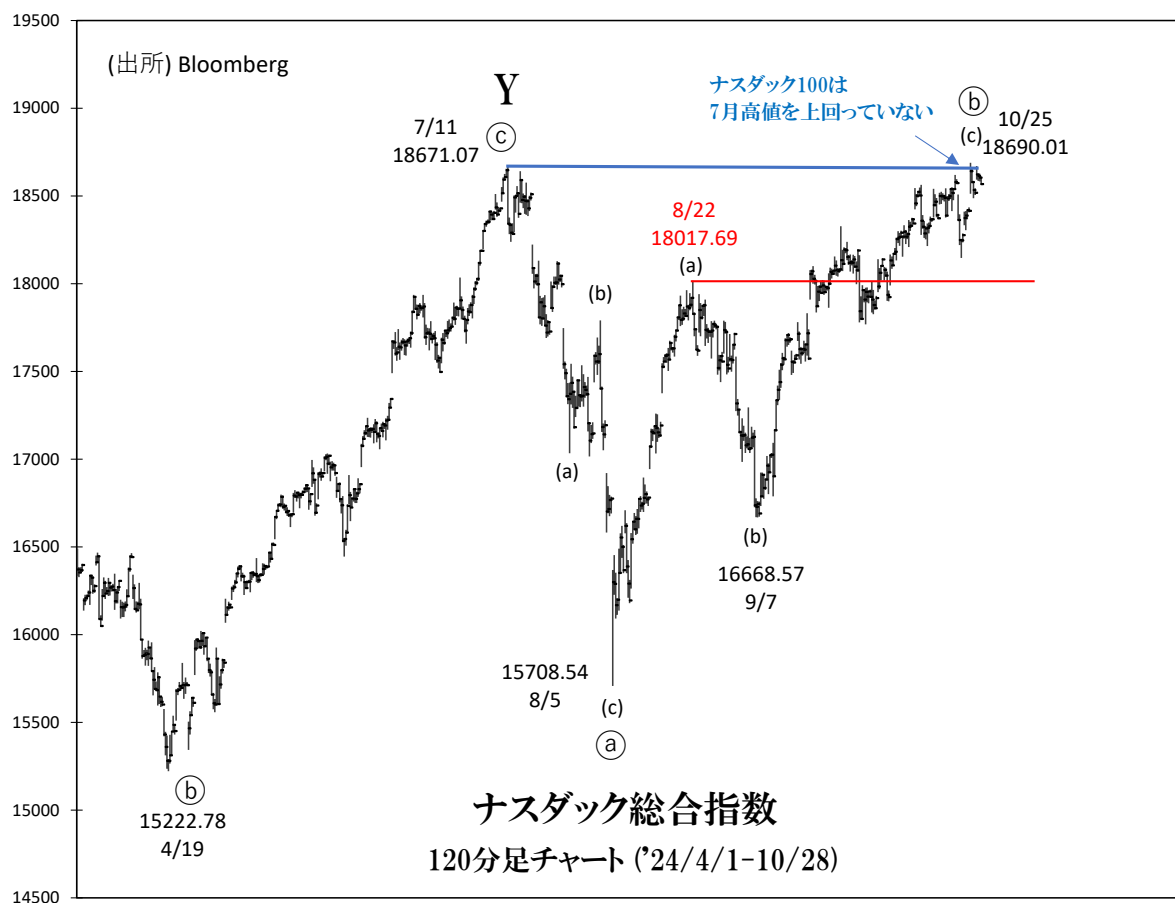
NY ダウは波動カウント面でも水準面においても、重要なピークアウトの可能性があり、そうであれば、X 波による調整局面入りが今後明らかになっていくでしょう。



18,671(7/11 高値)より、X 波による調整が進行中とみられます。X 波は[トライアングル]か、[フラット]を形成中と思われます。8 月安値からは X 波中⑥波のリバウンドに当たり、それは終わったか終わりつつあります。

※10月第5週(10/28～11/1)のサポートライン水準…[16.639]

8



【時間足 エリオット波動分析】

7 月高値からの X 波は[フラット]か、あるいは[トライアングル](a)-(b)-(c)-(d)-(e)を形成中と思われます。

15,708(8/5 安値)からは、三波構成による⑥波のリバウンドに位置付けられます。

10 月 25 日、ナスダック総合指数は 7 月高値(18,671)を一時上回り、**ザラバでの最高値を更新**しました。。
もっともナスダック 100 は 7 月高値を上回っておらず、総合指数の高値更新はナスダック 100 によって確認されていません。

この「未確認」は弱気パターンであり、二つの指数のピークアウトを暗示するものとして注目できます。

今後、これら指数が 10 月 23 日の安値(総合指数で 18,146、ナスダック 100 では 19,934)を各々割り込むと、調整局面入りの可能性が高まります。

米ドル/円



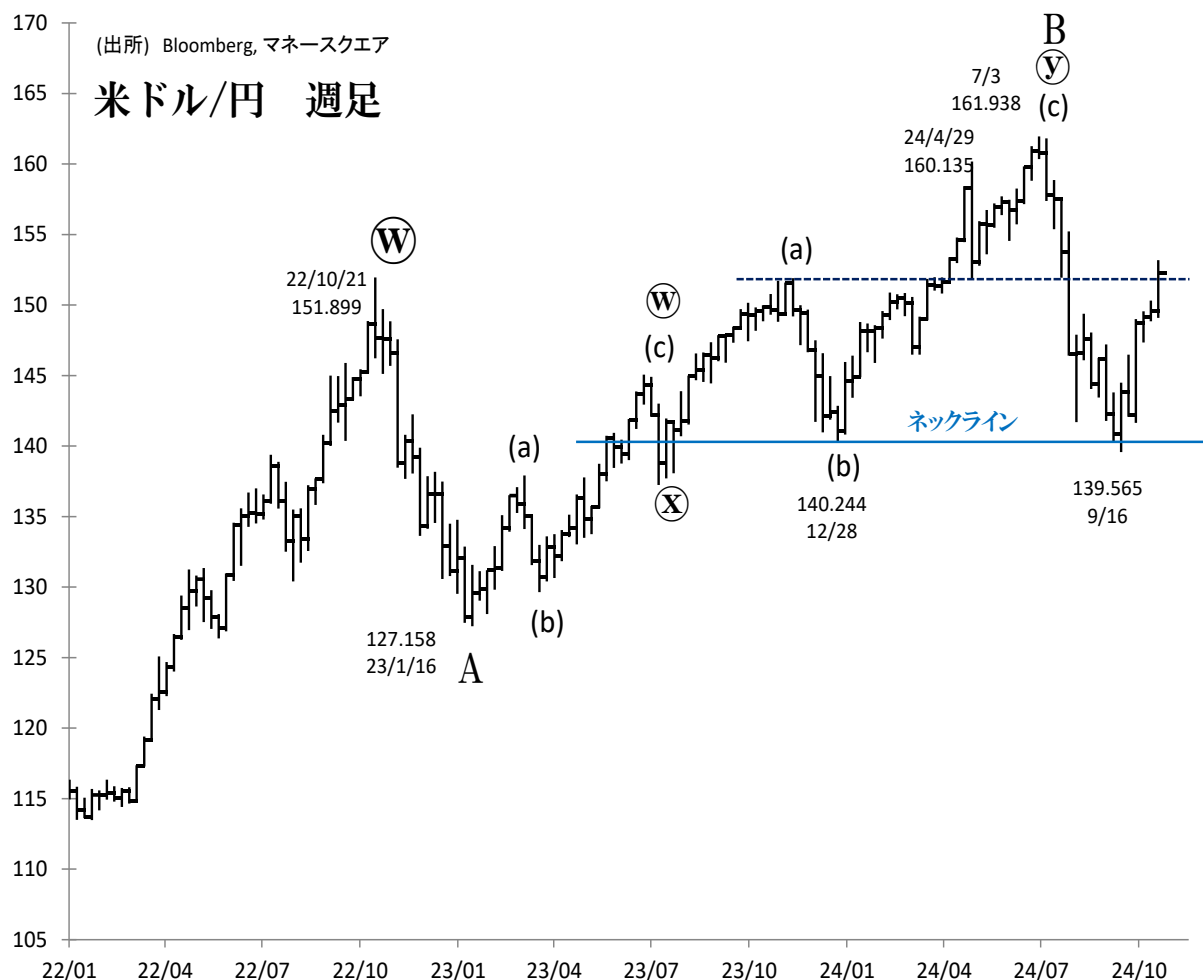
【月足・エリオット波動分析】

151.899 円(22/10/21)からは⊗波の「円高局面」が進行中です。この⊗波により米ドル/円(ドル/円)は、2028 年 4 月頃までレンジ相場を形成していくでしょう。161.938 円(7/3)は、15 年 6 月・125.860 円から 9 年目に付けた「8 年サイクル高値」とみられます。

22 年 10 月以来の⊗波が描くパターンとして大きくは、①[ランニング・トライアングル]、②[エクспанディッド・フラット]、これら二通りの可能性があります。なお①のもうひとつのパターンとして[ランニング・フラット]もあげられましょう。

①の場合、現行 C 波は A 波安値(127.158 円)を下回りません。C 波は三波で構成され、2011 年からの上昇チャネルのセンターライン(↑①)が強いサポートになるでしょう。10 月を通じ①の水準は 134.885 円です。

②の場合は、現行 C 波(五波構成)はチャネル下限(↑②)を目指すような、より大きなドル安・円高が見込まれます。10 月中、②の水準は 115.260 円となっています。



【週足 エリオット波動分析】

161.938 円(7/3)からは、C 波によるドル安・円高です。ちなみに C 波の長さは A 波と同等か、フィボナッチ比率関係を反映します。

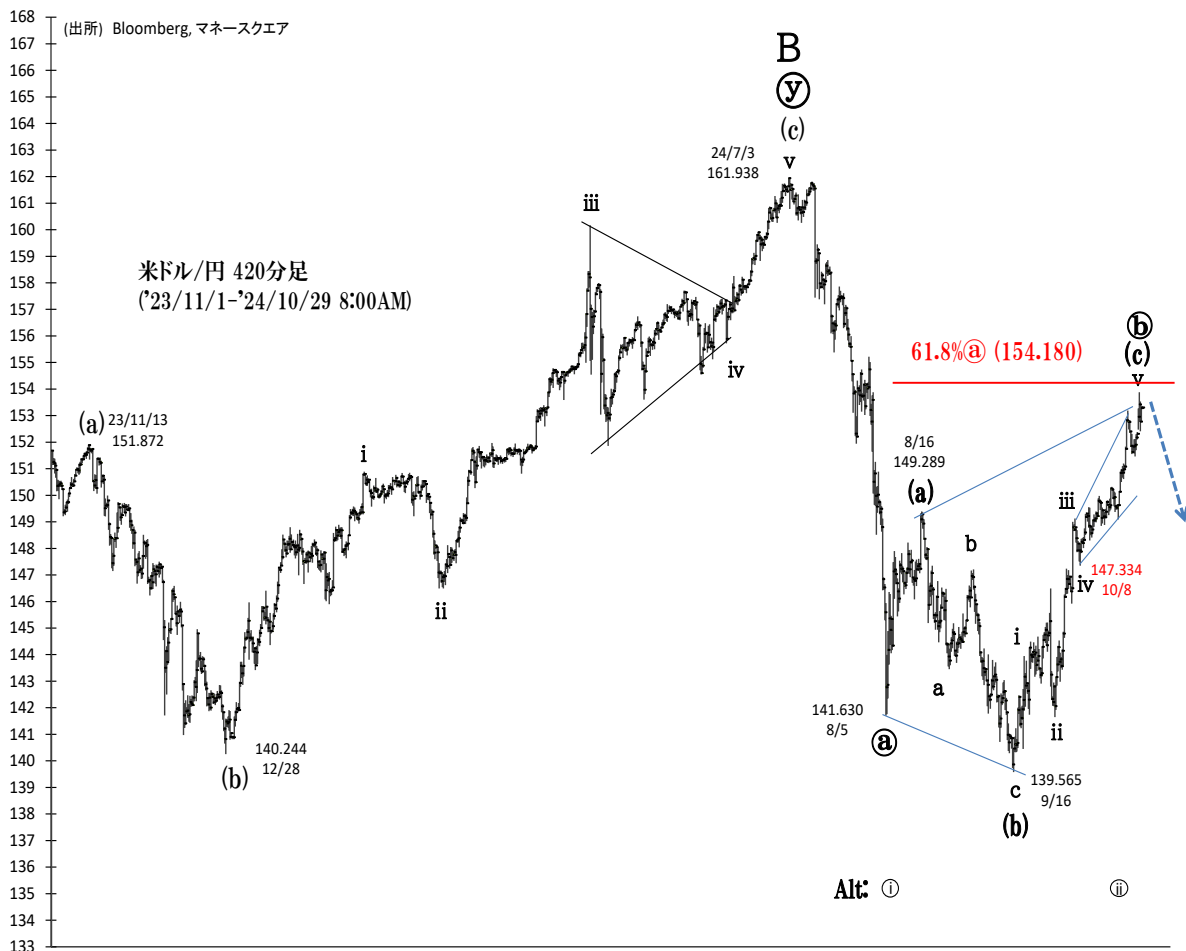
[137.197 円]…A 波の長さ(24.741 円)=C 波の長さ

[131.358 円]…A 波の長さ×1.236=C 波の長さ(30.579 円) (※)この時点でドル/円は月足サポート①を明確に下回り、以下の水準を目指す可能性が高まります。

[127.745 円]…A 波の長さ×1.382=C 波の長さ(34.192 円)

[121.907 円]…A 波の長さ×1.618=C 波の長さ(40.030 円)

ちなみに 23 年後半からのパターンが、140 円処をネックラインとする『ヘッド・アンド・ショルダーズ(三尊天井)』だとすると、近いうちに天井パターンにおける右肩トップを付け終わり、ドル/円は下落に転じるでしょう。さらにはネックライン割れをきっかけに、ドル安・円高の流れが強まると想定されます。



【時間足 エリオット波動分析】

141.630 円(8/5)からは⑥波によるリバウンドであり、そのパターンとして「エクспанディッド・フラット」を想定しています。

10 月 28 日には一時 153 円台後半へドル/円は上昇、以下のチャート節目に達しつつあります。

[153.391 円]…161.938 円(7/3)→139.565 円(9/16)の 61.8%戻り

[154.180 円]…④波によるドル安・円高の 61.8%戻り

⑥波完了後には⑦波のドル安・円高基調が続くとみられ、それはまず[137.197 円]を試すでしょう。

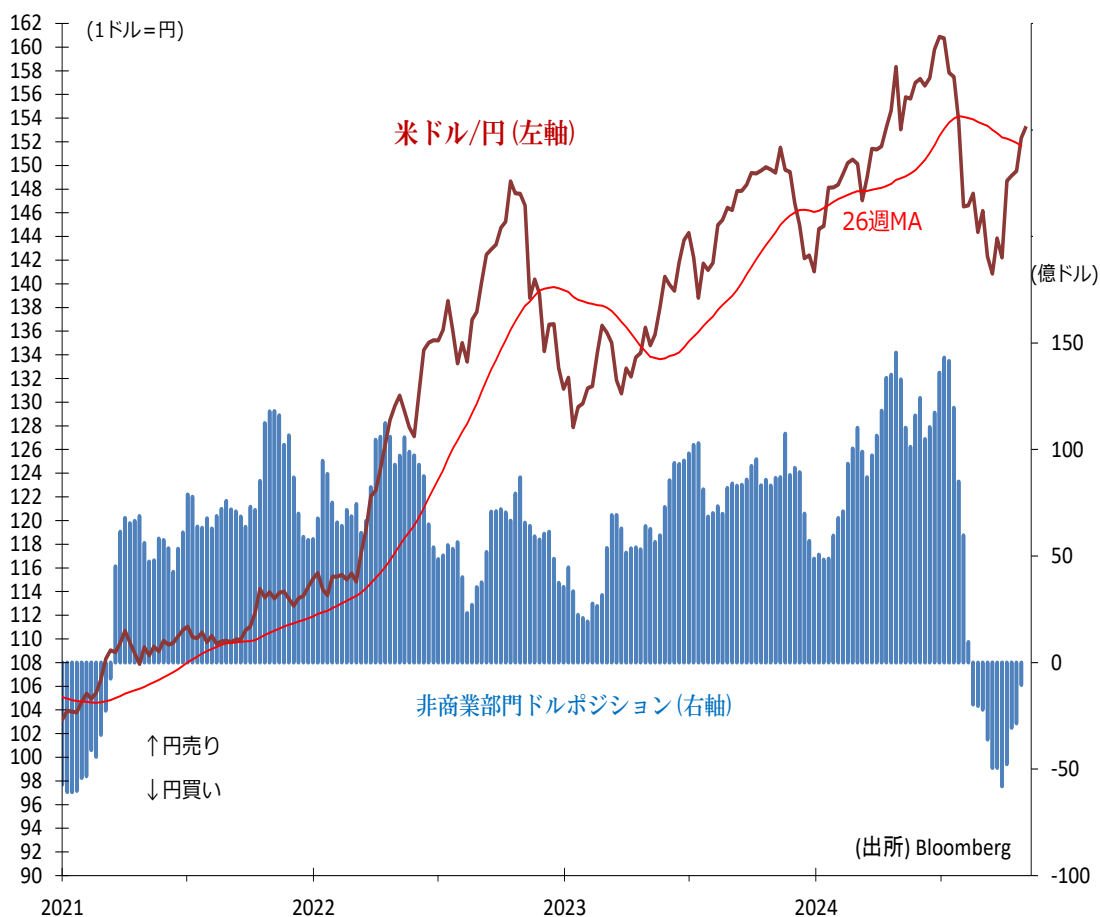
投機筋の円売り戻しは一巡か、あるいは継続か

IMM 通貨先物市場での非商業部門(投機筋&ヘッジファンド)による円買い持ちポジションは、10 月 22 日時点で 1.27 万枚(10.6 億ドル)と 4 週連続で縮小しました。

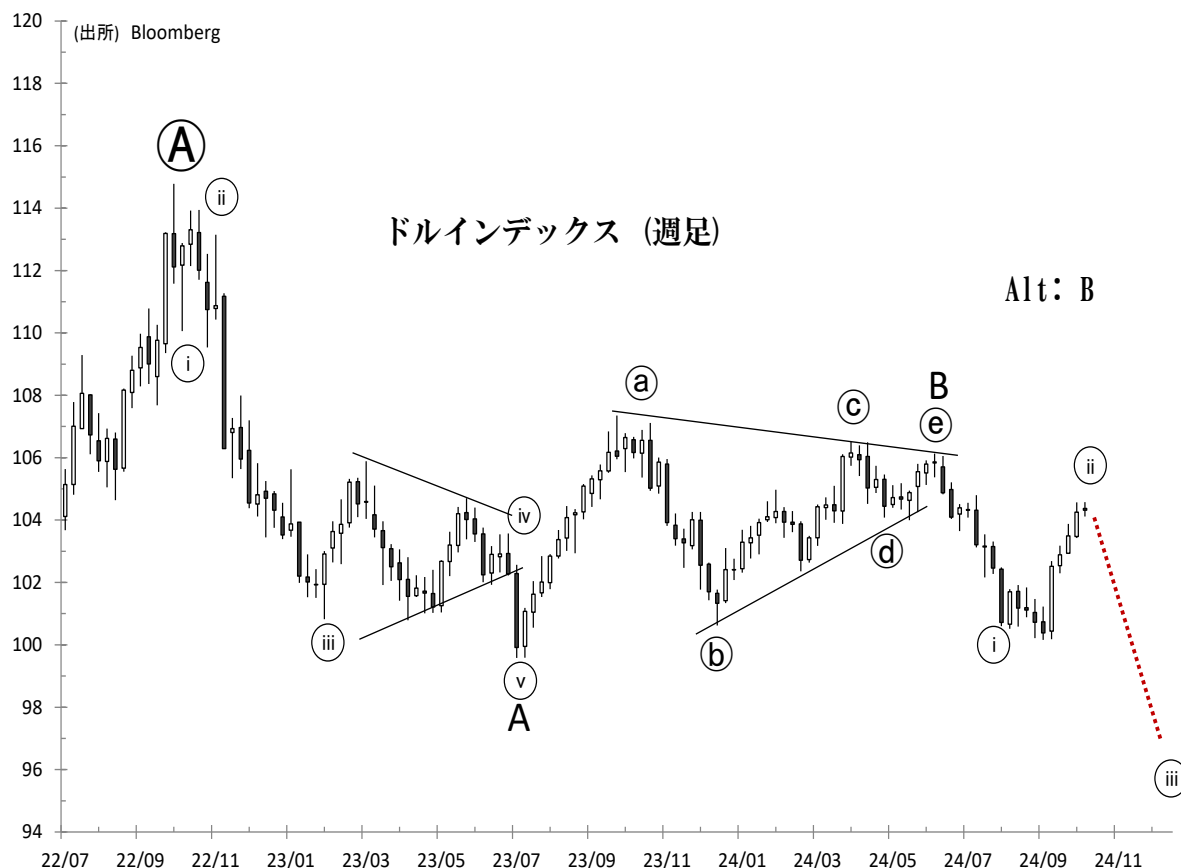
ここは(短期的な)需給面の注目ポイントに差し掛かっているようです。

投機筋の円売り戻しの動きが一巡したのなら、ドル/円の下落基調が再開するのにさほど時間はかからないでしょう。

その反面、足元のドル/円水準は投机筋にとって重要な目安である 26 週 MA(151.690 円)を上回り始めており、それが新たなドル/円買いの呼び水になるようだと、ドル/円はもう一段の上値試しがありそうです。



ドルインデックス (ドル指数)



【週足 エリオット波動分析】

22 年 9 月高値(114.778)以来、ドルインデックス(ドル指数)はB波による下落局面にあります。B波は三波構成(A-B-C)です。

106.130(6/26)以来、C波によるドル安基調が進行中です。このC波は五波構成(マル i~マル v)となります。9 月末からのドル反発は C 波-マル ii 波に位置し、それは米長期金利高とリンクしています。ドル高・金利高はおそらく短期的にも終了し、マル iii 波によるドル安が始まるでしょう。マル iii は 23 年安値(99.578)を下抜くでしょう。

なお足元は投机筋のドル買いが強まっています。10 月 22 日時点で、IMM 通貨先物の非商業部門による米ドルネットポジション(対主要 8 通貨)は、売り持ちから買い持ちに転じました。もう少しドル高が続くなら、23 年 7 月安値(99.578)からの B 波は「フラット」を形成中とみられます。足元のドル高は B-C 波に当たり、それを以て B 波終了となります。

いずれにしても、全体としての流れがドル安、という基本観は変わりません。

B波は最終的に、[90.930]、[89.209]を試す可能性があります。前者は A 波と C 波が等しく下がる水準、後者は 21 年 1 月に付けた、A 波のレサラー・ディグリー(4)波安値です。

※当レポートは、情報提供を目的としたものであり、特定の商品の推奨あるいは特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。

※当レポートに記載する相場見通しや売買戦略は、ファンダメンタル分析やテクニカル分析などを用いた執筆者個人の判断に基づくものであり、予告なく変更になる場合があります。また、相場の行方を保証するものではありません。お取引はご自身で判断いただきますようお願いいたします。

※当レポートのデータ情報等は信頼できると思われる各種情報源から入手したものです。当社はその正確性・安全性等を保証するものではありません。

※相場の状況により、当社のレートとレポート内のレートが異なる場合があります。

当社サービスに関する注意事項

・取引開始にあたっては契約締結前書面をよくお読みになり、リスク・取引等の内容をご理解いただいた上で、ご自身の判断にてお願いいたします。

・当社の店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引および取引所株価指数証拠金取引は、元本および収益が保証されているものではありません。また、取引総代金に比較して少額の資金で取引を行うため、取引の対象となる金融商品の価格変動により、多額の利益となることもあります。お客様が差し入れた証拠金を上回る損失が生じるおそれもあります。また、各金融市場の閉鎖等、不可抗力と認められる事由により店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引および取引所株価指数証拠金取引が不能となるおそれがあります。

・店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引における取引手数料は無料です。

・取引所株価指数証拠金取引における委託手数料は注文が成立した日の取引終了後の値洗い処理終了時に証拠金預託額より、新規および決済取引のそれぞれに徴収いたします。手数料額は、通常 1 枚あたり片道 303 円(税込)、NY ダウリセット付証拠金取引および NASDAQ100 リセット付証拠金取引は 1 枚あたり片道 33 円(税込)です(ただし、建玉整理における委託手数料は無料です)。

・当社が提示するレートには、買値と売値に差(スプレッド)があります。流動性が低くなる場合や、天変地異または戦争等による相場の急激な変動が生じた場合、スプレッドが広がる場合があります。

・店頭外国為替証拠金取引に必要な証拠金額は、個人のお客様の場合、取引総代金の 4%以上です。法人のお客様の場合、取引総代金に、金融先物取引業協会が算出した通貨ペアごとの証拠金率(為替リスク想定比率)を基に当社が算出した証拠金率を乗じた金額となります。為替リスク想定比率は、金融商品取引業等に関する内閣府令第 117 条第 27 項第 1 号に規定される定量的計算モデルを用い算出します。なお、証拠金率(為替リスク想定比率)は変動いたします。店頭 CFD 取引に必要な証拠金額は、取引総代金の 10%です。取引所株価指数証拠金取引に必要な証拠金額は、商品ごとに当社が定める 1 枚あたりの必要証拠金の額に建玉数量を乗じる一律方式により計算されますが、1 枚あたりの必要証拠金額は変動いたします。

金融商品取引業 関東財務局長(金商)第 2797 号

【加入協会】日本証券業協会 一般社団法人 金融先物取引業協会
株式会社マネースクエア
